

七つなる労働環境の改善めざす

9/11~13

第27回教研集会(金沢大学)に参加

黒瀬一弘副委員長

A1「高等教育・大

学・高等教育の転換点

にあつて考え行動する

ために」、B2「教員

の待遇・労働条件と教

育研究環境」、C3

「立憲主義・平和主義

を脅かす動きへの高等

教育機関からの発言・

安全保障関連法案反対

の取り組みを中心に」

してきました。

A1では、主に①学

校教育法および国立大

学法人法の一部改正に

伴い大学のガバナンス

がどのように変わった

か、②文科系・教員養

成課程縮小問題が論じ

られました。①につい

ては、法律改正を悪用

し大学のガバナンスを

脆弱化させるような規

程の変更がなされた大

学の実情が報告されま

した。②については、  
地方の小規模大学にお  
いて学生・教員定員が  
文科系から理系に配置  
転換されている例が報  
告されました。

B2では、学部改組、

非常勤講師問題、年俸

制などが議論されまし

た。文科省主導の学部

改組は現場を混乱させ

ていることが指摘され

ました。改正労契法に

関する非常勤講師問題

及び年俸制に関する全

大教のアンケート結果

が紹介され、各大学の

状況について意見交換

が行われました。

C3では、各大学で

の安保関連法案反対の

運動の報告がなされま

した。学生の盛り上が

りが不十分であること

が多く、大学で抱えて

いる共通の問題のよう

でした。本件に関して

当組合では特別決議を

採択しました。また9

月に入ってから東北大

学教職員有志で反対声

明を出しましたが、他

大学の様子をみると東

北大がほんの数日の間

に250名もの賛同者

を集めることができた

のは驚異的だったと思

います。

いろいろな大学の状

況を聞きましたが、少

なくとも前記の分科会

のテーマに関する限り、

東北大の状況は悪くは

ないというのが率直な

感想です。しかし、東

北大も問題が山積して

いることは明らかです。

われわれはさらなる労

働環境の向上を目指し

ていかなければならな

9/5 宮城県労連大会  
**戦争法案廃案など  
 3つの柱を中心に**  
 高橋計介副委員長

おり、引き上げに尽力  
すること、大企業の内  
部留保は299.5兆  
円に達し、賃金を上げ  
ることは十分可能であ  
ることも紹介されまし  
た。また、残業代ゼロ  
法案等を廃案にさせる  
取り組みも示されまし  
た。

8月30日の「安保法  
案反対10万人デモ」の  
興奮醒めやらぬ時期の  
開催となりました。  
冒頭の安藤満議長の  
挨拶では、県労連の活  
動の3つの柱について  
説明がありました。  
1つは「戦争法案」  
を廃案に追い込む活動  
です。国会周辺だけで  
も12万人、全国で数十  
万人が反対デモに参加  
した状況を鑑みれば、  
廃案にすることが民主  
主義であり、しっかり  
追い込みたいとの話で  
した。  
2つめは労働法制問  
題、労働条件の改善に  
対抗する活動です。最  
低賃金に関して宮城県  
は全国平均を下回って

質疑・討論の中では、  
厳しい現状の報告が幾  
つもあった一方、宮城  
青年ユニオンからは若  
い人・学生アルバイト  
中心の職場で新たに2  
つの組合が組織された  
事例が紹介され、労働  
相談の成果が少しずつ  
ですが出はじめている  
ことを感じました。

8/1~2 第62回日本母親大会 in 神戸  
**戦場ぬ止み**(いくさばぬとどうみ)

「標的の村」という映画と監督の三上智恵さん  
の講演の分科会に参加。沖縄県東村高江の人  
たちのヘリパッド建設反対の闘いを描いたドキュ  
メンタリー映画だ。非暴力の闘いを進めてきた  
が、結局米軍のヘリが上空を飛び交い、「私たち  
は標的か？」と思う毎日を過ごしている。

正直、これまでこの闘いを知らずにいた。  
「過去、そして現在、沖縄の人たちが置かれて  
いる状況で私が知っていることはほんの一部に  
すぎない、東日本大震災後のまだまだ大変な状  
況を西に住んでいる人は解っていないと批判は  
できない」と思い知らされた。

たくさんの賞を受賞したこの映画だが、動員  
数はまだまだ少ない。

三上監督の次の作品は「戦場ぬ止み(いくさ  
ばぬとどうみ)」。「標的の村」も合わせて  
多くの人に観てほしい。文字通り、戦争を止め  
させ、平和な世界にしていきたい。(M・T)